

# 中国夢（チャイナドリーム）の終焉 —減速する中国とどうつきあうか—

『週刊東洋経済』編集長代理 西村 豪太

- \* 中国の夢とは何か
- \* 軒並み下落した住宅価格の衝撃
- \* 「新常态」に入った経済
- \* 習近平が利権構造にメスを入れる狙い
- \* 経済成長減速で揺らぐ共産党の権威
- \* 軍経費がパワーの源泉の習近平
- \* 1日、6000億円売るアリババが上場
- \* アリババ創業者、ジャック・マーの実像
- \* 中国のTPP参加前提で動く台湾
- \* 対日戦勝70年と歴史問題



**柴生田** それでは開会いたします。（拍手）

今日は週刊東洋経済の編集長代理をしていただきます西村豪太さんに来ていただきました。西村さんは2004年から2005年にかけて1年間、中国社会科学院日本研究所に客員研究員として招かれて、滞在されました。その後、『週刊東洋経済』に戻られてから、『週刊東洋経済』の中国特集の中心的な役割を果たしてまいりましたので、記事をお読みの方もたくさんいらっしゃると思います。

この経済倶楽部でも、中国関係の専門家の方はいつも何人もお呼びしているわけでございますが、公式的なお話とは別に、今日は西村さんから、中国経済の本当のお話、それから中国と日本との関係についても現場のさまざまな生な

情報にも接しておられるので、現実に即したお話をしていただけると思います。

**西村** それではよろしくお願いたします。（拍手）  
ただいまご紹介にあずかりました西村でございます。『週刊東洋経済』の編集部で働いております。

今日は偶然といえますか、事務局の慧眼によるものかわかりませんが、非常に記念すべき日です。アリババという名前を聞かれたことがある方も多いと思いますが、中国のインターネット通販の会社がニューヨークに上場します。時価総額で20兆円を超える史上最大のIPOになると言われております。まさにその日というのは話が非常にしやすいですね。中国の光と影という点ではいいタイミングかなと思います。光